

教育ICTの学びによる笑顔を、最前線からレポート！

No.4

ICT活用による教育の質の向上を実現するため ICT支援員を導入した 教育委員会担当者に聞く

港区教育委員会事務局
学校教育部教育指導課
下橋良平氏、堀内遥氏



機器支援から授業支援、そして教材作成支援へ。 ICT支援員は「チーム学校」の一員です

「港区学校情報化アクションプラン」により、ICT環境整備を進めている港区教育委員会事務局様に、2015年度から5年にわたり実施しているICT支援員による学校サポートについて、お話を伺いました。



下橋 良平氏（しもはし りょうへい）
港区教育委員会事務局 学校教育部教育指導課
指導主事（写真 左）
堀内 遥氏（ほりうち はるか）
港区教育委員会事務局 学校教育部教育指導課
指導支援係（写真 右）

ICT環境整備の目的を教えてください。

下橋 主体的、対話的で深い学びの実現と情報活用能力の育成、校務の効率化です。いずれも、教育の質を高めることをめざすものです。

ICT導入を進めるなかで、苦慮した点がありましたか。

下橋 現在、小学校に続き、中学校でもICTを整備して、授業での活用は進んでいるところですが、ただ、先生方が慣れ親しんだ授業スタイルから、ICTを取り入れて先生と児童・生徒、児童・生徒同士の双方のやりとりがある学びを生み出していくことが、実際に苦慮しているところだと思っています。

具体的にどのような難しさがあると思いますか。

下橋 以前、私が他県に授業

見学に行った時のことなのですが、体育の授業でタブレットを使っていて、急に不具合が生じたんです。すると先生はその対応におわれ、授業が滞ってしまっただけ。その時、思ったんです。先生は授業に集中して、ICT機器の不具合等は他の人が担当する、という体制でないと、授業に遅れが生じてしまう。せっかく整備しても、支援する人がいない状態では、活用を進めるのは難しいと思いました。こうした学校現場の状況を踏まえ、2015年度以降、港区ではICT支援員を導入しています。

ICT支援員には、どんな役割を期待していましたか。

下橋 3つあります。基本的な機器操作支援、日常の授業支援、教材作成支援です。どれも大事にしたいのですが、現状は機器操作の支援依頼が多いかと思えます。授業や教材作成の支援に入ってもらい、質の向上につながったと考えていますが、先生方からは機器操作の支援でもメリットを感じているという声が届いています。単発的なICT研修も実施しつつ、「週1回等、定期的に来る支援員さんに直接質問できるのは助かる」、「授業展開がよりスムーズにできるようになった」といった声があり非常に大きいです。

導入いただいている商品

ICT支援員



上：ICT支援員が、授業準備のため充電保管庫から端末を取り出す様子／右：ICT支援員作成の資料例（上：音ありパワーポイント教材、下：ICT支援員だより）

ICT支援員を学校に派遣し、個々の先生方にICT機器の操作支援や教材作成補助、授業準備から授業サポートを実施します。先生方と一緒に考えることで、安心感を提供するとともに、先生の自信につながるようサポートします。

ICT支援員を導入して5年ですが、学校にとってどんな存在だと思いますか。

下橋 1人1台タブレットを始めて1年経った小学校では、支援員さんがICTを活用した授業の核になっています。先生が考えた授業案に提案をしてもらったり、機器の準備をしてもらったりしています。学校も頼りにしています。「チーム学校」という言葉がありますが、支援員さんは間違いなくその一員ですね。

* 支援員の巡回支援がない時も、ICT機器やアプリケーションの使い方、機器の不具合等、学校で生じた困りごとに電話で対応する仕組みです。

問い合わせ先：株式会社NTT ExCパートナー 教育ICT事業部

TEL 03-5419-7219 (代)

e-mail with-school2020@nttls.co.jp

URL <https://nttls-edu.jp/supportstaff/>